※掲載された情報または内容のご利用により、直接的、間接的を問わず、お客様または第三者が被った損害に対して、弊社は責任を負いません。あらかじめご了承願います。

水害対策

水害にそなえて 避難する時の注意点

万が一の時にはどんな行動をとれば良いか、普段から意識しておきましょう。

●安全な格好で

頭にはヘルメットや防災ずきんを。靴は長靴や裸足は危ないので、ひもでしめられる運動靴で避難。

●足下に注意

水面下には、マンホールや側溝など足を踏み外す危険があるため、長い棒を杖がわりにして確認しながら歩く。

●単独行動はしない

ひとりで避難しない。はぐれないようにロープなどで結んで避難する。

●水の深さに注意

歩ける水深は男性で約70cm、女性で約50cm。腰まで水が浸かる時は、高所で救助を待つ。

●子どもや高齢者に配慮

高齢者や病人などは背負い、子どもには浮き袋などを身につけさせ、安全を確保して避難。

身の回りの危険な場所を知っておこう

東日本大震災以降、広く知られるようになった「ハザードマップ」。
これは地図上で被害予測や避難場所など指示した地図のことです。
各自治体でも作成されていてインターネットから手軽にみることができます。
自分が今住んでいる場所が、

どんな災害の危険性があるのか。
避難場所はどこなのか。
家族や周りの人たちとも情報を共有しておきましょう。

「避難準備情報」とは

避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告や避難指示（緊急）を発令することが予想される場合 □避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難を開始しましょう。 □その他の人は、避難の準備を整えましょう。
避難勧告	災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合 □速やかに避難場所へ避難をしましょう。 □外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。
避難指示	災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合 □まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。 □外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。
また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

Howto☆なびco
動画でもっとわかりやすく!
暮らしに関するHowto情報を動画で配信中。

How To 情報
コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいやくらしに役立つノウハウが満載です。

Copyright©KOMERI Co.,Ltd. All rights reserved.